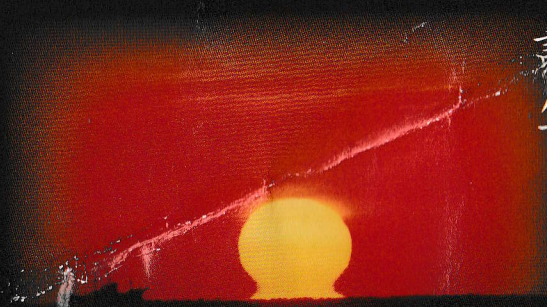
世界遺産登録に向けて、新しい拠点が誕生しました。

高知県産の材木を使用した空海遍路文化会館

空海が修行したことから聖地となり、地元の人たちが育んだ四国八十八ヶ所霊場は、現在、日本遺産に認定され、世界遺産への登録をめざしています。空海が修行した行当岬に建つ空海遍路文化会館は、弘法大師空海の偉業と遍路文化を未来へとつなぐ拠点として誕生しました。



空海遍路文化会館

Kukai pilgrim lyceum

弘法大師空海が、室戸に残したもの。

19歳のとき、そして35歳のとき。

空海は二度、室戸を訪れたと伝わっています。

その軌跡を貴重な資料や映像でたどります。

空海遍路文化会館

空海の物語は、不動岩からはじまります。

不動岩では空海を慕う僧たちも修行を積みました

旧暦1月28日には不動堂で法要が執り行われます

19歳の空海が山林修行の果てにたどり着いた不動岩。ここで100日あまり修行をし、悟りを開いたと伝えられています。遊歩道をめぐると、空海が修行した籠堂（こもりどう）や太平洋に突き出た正座石があります。そこには空海が目にした、空と海が広がっています。

正座石がある場所には案内看板があります

19歳の弘法大師像を公開。

修行時代の面影を残す、金剛頂寺の秘仏、弘法大師像と神護寺の弘法大師像。神護寺の大師像は金剛頂寺の大師像を模刻したという記録が残っています。

映像でたどる空海の歩んだ道。

善通寺、室戸の不動岩、中国の青龍寺、金剛頂寺、神護寺、東寺[教王護国寺]、高野山金剛峯寺をめぐり、空海の軌跡を40分ほどの映像でたどります。

宮中の法要に用いた国宝の曼荼羅。

東寺[教王護国寺]に伝わる国宝両界曼荼羅図を忠実に再現した、胎蔵界、金剛界の曼荼羅を展示します。

公開されることは滅多にない両界曼荼羅図（複製）

館内は、秘仏、国宝、重要文化財を写真や映像で紹介する曼荼羅世界です。

金剛頂寺を舞台とした有名な悪魔問答の一場面

弘法大師が室戸に残した宝物。

金剛頂寺の寺宝、旅壇具と密教経典は、平安時代のもの。密教僧が使うものであることから密教を日本に伝えた弘法大師が残した品といわれます。これらの貴重な宝物を写真とともに解説します。

空海が墨を磨ったと伝わる硯石。

弘法大師空海が墨を磨った硯には、室戸の硯ヶ浦でとれる良質な硯石が使われたと伝わっています。

休憩室にはケヤキの巨木テーブル。

だるま夕日を望むことができる休憩室には高知県産ケヤキ一木のテーブルがあります。その重さ約1トン、長さ約6メートル。遍路関係の書籍もあり、自由に閲覧できますので、ゆっくりとお過ごしください。

〒781-7107 高知県 室戸市元甲 2477
国道 55 号線　行当岬の不動堂、南側

空海と不動岩

不動岩は青年空海の聖地を慕う後の修行僧達の辺路修行で、岸壁にしがみつきながら海に突き出た断崖や巨岩を廻る「かいさはり」などの行をした場所であろう。厳には行道できる小径の跡が認められ、海に向かって二つの洞窟が開いている。西の窟はかなり広く、籠堂としての役割に足りると思われ、東の窟は虚空蔵菩薩の祠があり求聞持法の道場だったと考えられる。辺路信仰と求聞持法の一種の結合した形とも言える。

（頼富本宏著「四国遍路とは」なにか」より）

空海処女作「三教指帰」（七九七年）に「阿波大龍獄に躋（のぼ）り攀じ土州室戸の崎に勤念す　谷響きを惜しまず明星来影す」とあり、また新勅撰和歌集には「法性の室戸といえど我が住めば有為の浪風寄せぬ日ぞなき」（空海作）と詠まれている。室戸の雄大なる自然環境の中から空海の宇宙観を生み出したところと思われる。

高さ四十メートルの海に面した不動岩は、室戸岬と羽根岬のほぼ中間の行当崎に位置し、その地にある不動堂には本尊に浪切不動明王が祀られている。不動堂は行当崎山頂にある金剛頂寺（土佐西寺）の飛び地境内で、明治初期まで金剛頂寺が女人禁制であったため女性の方は入山できず、不動堂で参拝したことから女人堂とも言われていた。

空海が残し、人々が育んだ四国八十八ヶ所霊場という遍路文化は、日本文化を世界に発信する場となっている。その日本特有の遍路文化を伝える施設として、空海修行の地、行当崎に『空海遍路文化会館』を開館。現在世界ジオパークに認定されている室戸の【行当　黒耳サイト】として、大地の隆起を美しい景観と共に楽しむことができる。

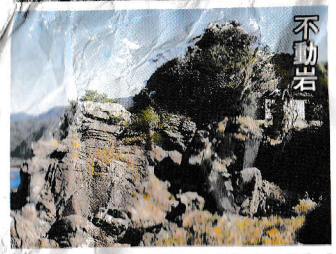
※納経は空海遍路文化会館で行っています。

四国霊場第二十六番札所　龍頭山　光明院　金剛頂寺

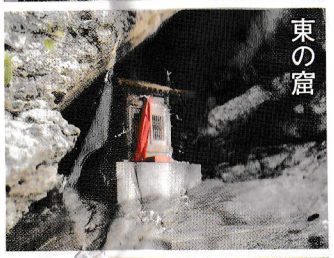
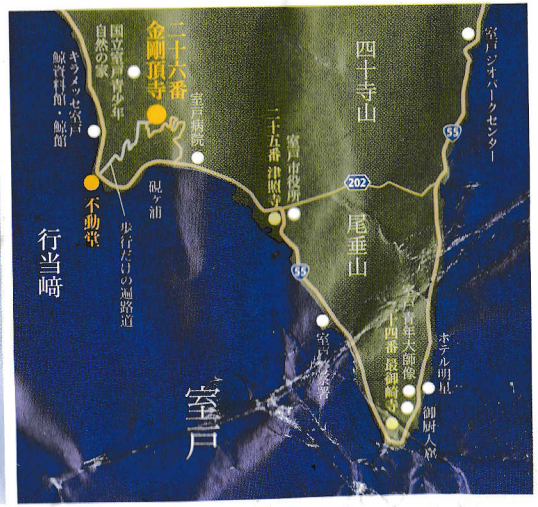
住所　高知県室戸市元乙五二三　電話　〇八八七―二三―〇〇二六

不動堂

不動堂からの太平洋の眺め


不動岩

大師堂


東の窟

西の窟